

## 第5章 失業中の生活実態

### 第1節 収入と支出

#### 1. 所得構造

失業が長期化した場合、どのような所得構造で生活を維持しているのでしょうか。まず、単身者を除いた家族構成が2人以上の者について、本人以外に勤労所得のある者がいるのを見ると、「いない」が39.0%であり、長期失業者の4割近くは、本人以外に勤労所得がないというのが実態である。他方、約6割の長期失業者は、本人以外に勤労所得のある者がいるが、それは「配偶者」(28.7%)、「親」(23.8%)、「子供」(8.9%)という構造になっている。

これを年齢階層別に見ると、配偶者の割合は、年齢階層が上がるほど高まっており、50歳代では37.9%となっている。反対に、親の割合は、年齢階層が下がるほど高まっており、39歳以下では43.5%と半数近くに達している。なお、50歳代になると、子供が18.5%になっている。

このように、長期失業者の家計単位でみた勤労収入は、中高年層では配偶者が、若年世代では親が、それぞれ収入面から生活を支える、ないしは補助するという構造になっている。こうした所得構造は、男女別に見てもほぼ同じであり、配偶者は男性では50歳代(40.4%)が、女性では40歳代(45.5%)が、それぞれその割合が最も高くなっている。親に関しては、男女とも39歳以下で最も高くなっており、それぞれ46.7%、38.8%となっている(第5-1-1表)。

次に、単身者も含めて生活費を、どのような収入でまかなっているのを見ると、最も回答率が高いのは「預貯金」(57.6%)であり、次いで「本人の雇用保険(失業手当)」(34.4%)、

第5-1-1表 年齢階層・男女別本人以外で勤労収入のある者(複数回答)

		(%)					
		合計(人)	配偶者	子供	親	その他	いない
合計	合計	369	28.7	8.9	23.8	10.0	39.0
	20～39歳	124	19.4	2.4	43.5	15.3	31.5
	40～49歳	103	28.2	1.9	24.3	11.7	38.8
	50～59歳	124	37.9	18.5	7.3	4.8	43.5
	60歳以上	18	33.3	27.8	0.0	0.0	61.1
男性	合計	259	26.3	9.3	23.2	8.9	44.0
	20～39歳	75	12.0	4.0	46.7	14.7	37.3
	40～49歳	70	20.0	1.4	24.3	11.4	48.6
	50～59歳	99	40.4	16.2	8.1	4.0	43.4
	60歳以上	15	33.3	26.7	0.0	0.0	60.0
女性	合計	110	34.5	8.2	25.5	12.7	27.3
	20～39歳	49	30.6	0.0	38.8	16.3	22.4
	40～49歳	33	45.5	3.0	24.2	12.1	18.2
	50～59歳	25	28.0	28.0	4.0	8.0	44.0
	60歳以上	3	33.3	33.3	0.0	0.0	66.7

「家族の給与・収入」(30.5%)、「本人のアルバイトなどの臨時収入」(27.5%)、「本人の退職金」(21.5%)、「借金」(12.7%)、「仕送り」(6.3%)、「生活保護」(3.3%)、「本人の年金」(1.8%)となっている。

年齢階層別に見ると、それほど大きな差異はないが、「本人の退職金」に関しては年齢階層が上がるほど高まっている。反対に、「本人のアルバイトなどの臨時収入」と「家族の給与・収入」は、年齢階層が下がるほど高まっている。なお、「借金」(16.8%)は50歳代で、「生活保護」(4.1%)は40歳代で高くなっている。こうした傾向は、男女別に見てもほぼ共通して認められる(第5-1-2表)。

第5-1-2表 年齢階層・男女別収入

		(%)										
		合計(人)	本人の雇用 保険(失業 手当)	本人の退職 金	本人の年金	本人のアル バイトなどの 臨時収入	預貯金	家族の給 与・収入	借金	仕送り	生活保護	その他
合 計	合計	512	34.4	21.5	1.8	27.5	57.6	30.5	12.7	6.3	3.3	6.8
	20～39歳	168	31.0	14.3	0.0	38.1	56.0	34.5	10.7	8.9	2.4	5.4
	40～49歳	146	32.9	17.8	0.7	24.0	61.0	31.5	10.3	5.5	4.1	7.5
	50～59歳	179	37.4	29.1	1.1	22.3	56.4	26.3	16.8	5.0	3.9	7.3
	60歳以上	19	47.4	42.1	31.6	10.5	57.9	26.3	10.5	0.0	0.0	10.5
男 性 計	合計	345	35.7	26.1	2.6	27.2	59.1	26.4	15.7	5.5	4.6	6.4
	20～39歳	102	31.4	18.6	0.0	40.2	57.8	30.4	17.6	7.8	3.9	4.9
	40～49歳	93	34.4	21.5	1.1	23.7	65.6	22.6	11.8	5.4	5.4	6.5
	50～59歳	135	38.5	31.9	1.5	22.2	55.6	25.9	17.8	4.4	5.2	6.7
	60歳以上	15	46.7	53.3	40.0	6.7	60.0	26.7	6.7	0.0	0.0	13.3
女 性 計	合計	167	31.7	12.0	0.0	28.1	54.5	38.9	6.6	7.8	0.6	7.8
	20～39歳	66	30.3	7.6	0.0	34.8	53.0	40.9	0.0	10.6	0.0	6.1
	40～49歳	53	30.2	11.3	0.0	24.5	52.8	47.2	7.5	5.7	1.9	9.4
	50～59歳	44	34.1	20.5	0.0	22.7	59.1	27.3	13.6	6.8	0.0	9.1
	60歳以上	4	50.0	0.0	0.0	25.0	50.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0

このように、失業中の生活を支える収入は、預貯金と雇用保険が二大収入となっているが、雇用保険は受給期限があるため、失業期間が1年を超えている長期失業者に関しては、既に受給満了で収入からは脱落している。そこで預貯金を取り崩しながら、中高年層は退職金、家族の収入、本人の臨時収入などで、若年層では本人の臨時収入、家族の収入などで補っているというのが実態のようである。

ところで、家族の収入による補填が望めない単身者は、どのような収入構造になっているのであろうか。最も回答率が高いのは、「預貯金」(62.2%)であり、次いで「本人の雇用保険(失業手当)」(32.6%)、「本人のアルバイトなどの臨時収入」(31.6%)、「本人の退職金」(16.1%)、「借金」(14.0%)、「仕送り」(10.9%)、「生活保護」(5.2%)、「本人の年金」(1.0%)となっている。

その他と比較すると、臨時収入、仕送り、生活保護の割合が高くなっており、雇用保険が満了した後は、預貯金を取り崩しながら臨時収入で生活を支え、一部の者は仕送りを受けたり、最悪の場合は生活保護という構造になっている。

## 2. 収入と支出

失業中の家計単位でみた平均月額収入（税込）を見ると、「11～20万円」（36.7％）が最も多く、次いで「10万円以下」（30.2％）、「21～30万円」（21.9％）となっている。月収31万円以上は、合計で11.1％である。

年齢階層・男女別に見ると、男性60歳以上で31万円以上の高額収入者の割合が高くなっている以外は、それほど大きな違いは認められない（第5-1-3表）。

第5-1-3表 年齢階層・男女別家計単位でみた平均月額収入（税込）

								(%)
		合計(人)	10万円以下	11-20万円	21-30万円	31-40万円	41-50万円	51万円以上
合 計	合計	420	30.2	36.7	21.9	4.5	2.1	4.5
	20～39歳	141	30.5	36.9	18.4	4.3	2.8	7.1
	40～49歳	114	29.8	35.1	25.4	5.3	0.9	3.5
	50～59歳	147	31.3	38.8	21.8	3.4	2.7	2.0
	60歳以上	18	22.2	27.8	27.8	11.1	0.0	11.1
男 性 計	合計	281	30.6	38.4	21.7	3.2	1.8	4.3
	20～39歳	86	34.9	40.7	15.1	1.2	2.3	5.8
	40～49歳	71	29.6	40.8	22.5	2.8	1.4	2.8
	50～59歳	110	30.0	36.4	25.5	3.6	1.8	2.7
	60歳以上	14	14.3	28.6	28.6	14.3	0.0	14.3
女 性 計	合計	139	29.5	33.1	22.3	7.2	2.9	5.0
	20～39歳	55	23.6	30.9	23.6	9.1	3.6	9.1
	40～49歳	43	30.2	25.6	30.2	9.3	0.0	4.7
	50～59歳	37	35.1	45.9	10.8	2.7	5.4	0.0
	60歳以上	4	50.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0

次に、家計単位でみた平均月額生活費を見ると、「11～20万円」（44.4％）が最も多く、次いで「21～30万円」（26.1％）、「10万円以下」（19.6％）となっており、31万円以上は合計で9.9％である。

年齢階層・男女別に見ると、男性により顕著に認められるが、21万円以上では中高年層の割合が高くなり、20万円以下では39歳以下の割合が高まっている（第5-1-4表）。

このように、家計単位で見た収入と支出は、いずれも11～20万円が最も多く、収入では10万円以下が、支出では21～30万円が、それぞれ11～20万円に次いで高くなっている。つまり、収支が均衡しない者がかなりいると思われるが、分布から判断して10万円前後の収入不足に陥っているようである。

第 5-1-4 表 年齢階層・男女別家計単位でみた平均月額生活費

		(%)						
		合計(人)	10万円以下	11-20万円	21-30万円	31-40万円	41-50万円	51万円以上
合 計	合計	448	19.6	44.4	26.1	5.4	2.7	1.8
	20～39歳	141	24.1	51.8	16.3	2.8	2.1	2.8
	40～49歳	127	18.1	41.7	33.9	3.9	2.4	0.0
	50～59歳	162	17.9	43.2	26.5	9.3	2.5	0.6
	60歳以上	18	11.1	16.7	44.4	0.0	11.1	16.7
男 性 計	合計	304	21.1	41.4	26.6	5.9	2.3	2.6
	20～39歳	87	28.7	50.6	16.1	0.0	0.0	4.6
	40～49歳	81	18.5	40.7	33.3	3.7	3.7	0.0
	50～59歳	122	18.0	39.3	27.0	12.3	2.5	0.8
	60歳以上	14	14.3	7.1	50.0	0.0	7.1	21.4
女 性 計	合計	144	16.7	50.7	25.0	4.2	3.5	0.0
	20～39歳	54	16.7	53.7	16.7	7.4	5.6	0.0
	40～49歳	46	17.4	43.5	34.8	4.3	0.0	0.0
	50～59歳	40	17.5	55.0	25.0	0.0	2.5	0.0
	60歳以上	4	0.0	50.0	25.0	0.0	25.0	0.0

## 第 2 節 日常生活での困難

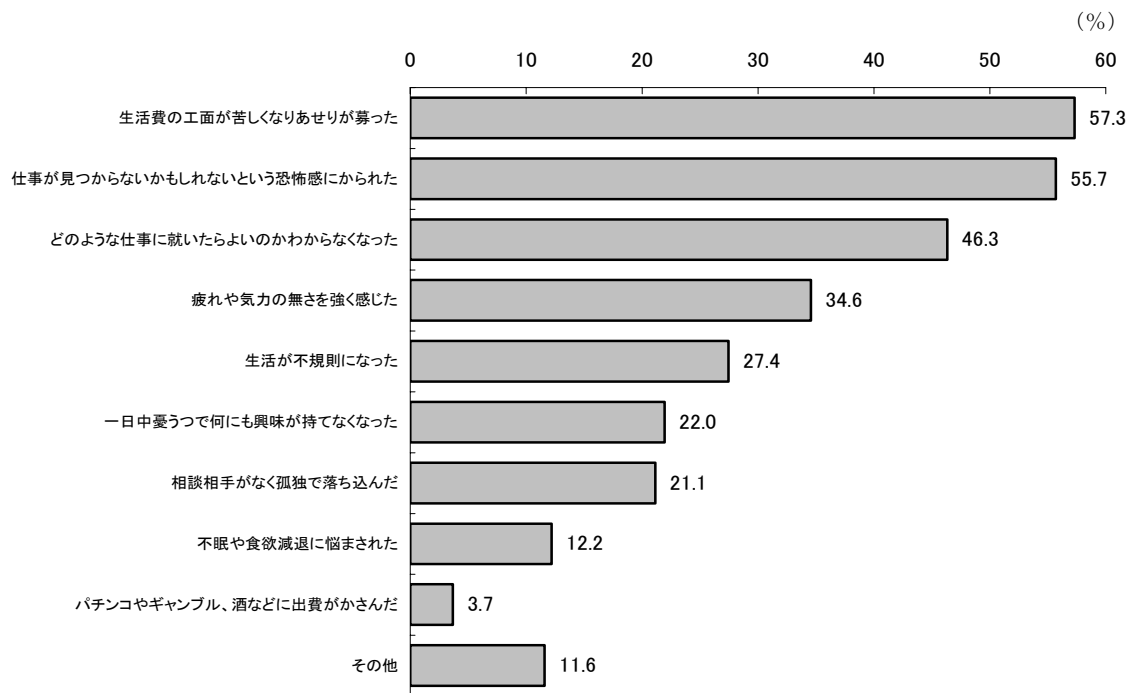
失業の長期化は、日常生活において様々な精神的プレッシャーやストレスを与えていると思われるが、長期失業者は、日常生活でどのようなことに困り、苦しんでいるのであろうか。

最も回答率が高いのは、「生活費の工面が苦しくなり再就職へのあせりが募った」(57.3%)であり、次いで「自分に価値がなく仕事が見つからないかもしれないという恐怖感にかられた」(55.7%)、「どのような仕事に就いたらよいかわからなくなってしまった」(46.3%)、「疲れや気力の無さを強く感じた」(34.6%)、「生活が不規則になって朝起きられなくなってしまった」(27.4%)、「一日中憂うつで何にも興味が持てなくなってしまった」(22.0%)、「相談相手がなく孤独で落ち込んでしまった」(21.1%)、「不眠や食欲減退に悩まされた」(12.2%)、「パチンコやギャンブル、酒などに消費がかさんでしまった」(3.7%)となっている(第 5-2-1 図)。

年齢階層別に見ると、「疲れや気力の無さを強く感じた」と「どのような仕事に就いたらよいかわからなくなってしまった」に関しては、年齢が下がるほど回答率が高まっているが、その他はそれほど年齢による差は生じていない。むしろ、男性 39 歳以下において、各項目の回答率がかなり高くなっていることが目立ち、このグループが長期失業のプレッシャーに最も弱いことを示唆している(第 5-2-1 表)。

ところで、こうしたストレスは、単身者に最も強く現れているのではないと思われるが、家族構成別に困ったこと・苦しかったことを見ると、単身者は多くの項目で高い回答率を示しており、失業に伴うストレスが高いようである。「生活費の工面が苦しくなり再就職へのあせりが募った」(64.9%)、「自分に価値がなく仕事が見つからないかもしれないという恐怖感

第 5-2-1 図 日常生活で困ったこと・苦しいこと（複数回答：該当するもの全て）



第 5-2-1 表 年齢階層・男女別日常生活で困ったこと・苦しいこと  
（複数回答：該当するもの全て）

		（%）										
合計（人）		生活が不規則になった	パチンコやギャンブル、酒などに 出費がかさんだ	相談相手がなく孤独で 落ち込んだ	一日中憂うつで何にも 興味を持てなくなった	疲れや気力の無さを強 く感じた	不眠や食欲減退に悩ま された	仕事が見つからないか もしれないという恐怖 感にかられた	生活費の工面が苦しく なりあせりが募った	どのような仕事に就い たらよいのかわからな くなった	その他	
合計	492	27.4	3.7	21.1	22.0	34.6	12.2	55.7	57.3	46.3	11.6	
合計	20～39歳	163	25.2	4.3	23.9	27.0	38.0	11.7	57.7	58.9	54.0	12.3
	40～49歳	136	33.1	2.2	24.3	19.9	35.3	13.2	58.8	48.5	47.1	10.3
	50～59歳	176	26.7	4.0	16.5	19.9	31.3	11.9	53.4	60.8	40.9	11.9
	60歳以上	17	11.8	5.9	17.6	11.8	29.4	11.8	35.3	76.5	23.5	11.8
合計	333	24.0	5.1	21.6	22.2	31.2	14.4	56.8	57.7	44.4	11.1	
男性計	20～39歳	98	25.5	7.1	25.5	30.6	34.7	15.3	60.2	60.2	52.0	12.2
	40～49歳	88	25.0	2.3	25.0	17.0	34.1	15.9	61.4	47.7	44.3	11.4
	50～59歳	134	23.1	5.2	17.2	20.1	26.9	12.7	53.7	61.2	41.0	9.7
	60歳以上	13	15.4	7.7	15.4	15.4	30.8	15.4	30.8	69.2	23.1	15.4
合計	159	34.6	0.6	20.1	21.4	41.5	7.5	53.5	56.6	50.3	12.6	
女性計	20～39歳	65	24.6	0.0	21.5	21.5	43.1	6.2	53.8	56.9	56.9	12.3
	40～49歳	48	47.9	2.1	22.9	25.0	37.5	8.3	54.2	50.0	52.1	8.3
	50～59歳	42	38.1	0.0	14.3	19.0	45.2	9.5	52.4	59.5	40.5	19.0
	60歳以上	4	0.0	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0	50.0	100.0	25.0	0.0

にかられた」（59.7%）、「どのような仕事に就いたらよいのかわからなくなってしまった」（44.1%）、「疲れや気力の無さを強く感じた」（33.5%）、「生活が不規則になって朝起きられなくなってしまった」（34.2%）、「相談相手がなく孤独で落ち込んでしまった」（27.1%）といった回答状況となっている。このうち、「再就職へのあせり」、「生活が不規則」、「孤独」といった項目は、最も高い回答率を示している。なお、単身者に似かよった回答傾向を示しているのは、家族・同居人である（第 5-2-2 表）。

第 5-2-2 表 家族構成別日常生活で困ったこと・苦しいこと  
(複数回答：該当するもの全て)

(%)

	合計	生活が不規則になって朝起きられなくなってしまった	パチンコやギャンブル、酒などに出費がかさんでしまった	相談相手がなく孤独で落ち込んでしまった	一日中憂うつで何にも興味が持てなくなった	疲れや気力の無さを強く感じた	不眠や食欲減退に悩まされた	自分に価値がなく仕事が見つけられないという恐怖感にかられた	生活費の工面が苦しくなり再就職へのあせりが募った	どのような仕事に就いたらよいかわからなくなってしまった	その他
合計	479	27.3	3.5	21.5	22.1	34.0	12.5	55.7	57.2	46.3	11.5
単身	188	32.4	3.2	27.1	22.3	33.5	13.8	59.0	64.9	44.1	11.2
世帯主	116	19.8	4.3	15.5	20.7	30.2	13.8	59.5	61.2	48.3	12.1
世帯主の配偶者	45	17.8	2.2	20.0	20.0	37.8	13.3	37.8	51.1	35.6	11.1
1-4以外の家族・同居人	130	30.0	3.8	19.2	23.8	36.9	9.2	53.8	44.6	51.5	11.5

以上のように、失業の長期化は様々なストレスを与えており、生活費の工面に苦勞することは当然予想できるが、それ以外に「自分に価値がない」、「疲れや気力の無さを強く感じた」、「朝起きられない」、「一日中憂うつ」、「孤独で落ち込んでしまった」と感じている者が、相当数存在している。このことは、長期失業者が大きなストレスやプレッシャーにさらされていることを示唆している。こうした状況にある場合、個人的に状況を改善できる者は少数であり、仕事に関連した職業相談や、精神的あるいは心理的な苦しさを和らげるためのカウンセリングなどが不可欠である。